

令和 9(2027)年 3 月の開院に向けて
工事の進捗状況などをお知らせします！



令和 8 年 1 月 25 日
＜お問合せ先＞
野洲病院新病院整備課
小篠原 1094 番地
077-587-6141

新病院の名称が「市立野洲地域医療センター」に決定しました！

『新病院ニュース』Vol.8 でご意見を募集した新病院の名称案につきまして、多くのご意見をいただきありがとうございました。その後、12 月の市議会定例会で議論が交わされ、12 月 24 日、名称を「市立野洲地域医療センター」とすることが、全会一致で決定されました。

いただいたご意見の中には、「地域の医療を担う病院としてふさわしい名称だと思う」というものがあった一方で、「長いのではないか」、「馴れ親しんだ『野洲病院』がいいのでは」といったご意見もありました。すべてのご意見は、下記の 2 次元コードからご覧いただけます。

新しい病院の名称には、「市立野洲地域医療センター」が、回復期など市民に身近な地域医療を担う医療機関であることや、住み慣れた地域での在宅療養を支援する医療機関であること、そして、地域の診療所や介護事業所と連携して、健康で安心して暮らせる地域包括ケアシステムを野洲の地域に築いていこうというメッセージを込めたものです。



名称案へのご意見は
こちらからご覧いただけます。

※ 左の図面はイメージです。
今後の調整により、変更する場合があります。

◆◆ 鉄骨の組み上げが進んでいます ◆◆

11 月 4 日から鉄骨の組み上げが始まりました（右写真）。
現在、新しい「市立野洲地域医療センター」の概形をご覧いただけるようになっています。



（令和 8 年 1 月 8 日 撮影）



【裏面に続きます】

◆◆「縁の下力持ち」と言われる薬剤課です！◆◆

野洲病院の薬剤課は「フットワークの軽さと丁寧さを大切に
して、患者さんに安心の医療を届ける！」をモットーに毎日の
業務を行っています。病院の薬剤師は、「縁の下力持ち」と言
われているのですが、なぜそう言われるのか、今回はそのわけ
に迫ります!?

入院中の患者さんには、お薬の説明はもちろん、お薬が適性
に使われているかなど安全性のチェックが欠かせません。ま
た、退院されるときにも、退院後のお薬を説明するとともに、
「(薬剤) 情報提供書」をかかりつけ薬局やケアマネジャーへお
渡しすることで、安全に安心して在宅等で療養していただくこ
とができます。そして、外来で化学療法を受けられる方やイン
スリンなどの自己注射を開始される方、別の医療機関で手術されたり再入院される方などには、薬剤
情報の提供や説明は必須となります。このように、決して目立ちませんが、入院中はもちろん退院後
のより良い治療のためには、病院薬剤師の仕事は欠かせないものなのです。なお、野洲病院では入院
から退院まで、患者さん一人ひとりに担当薬剤師を決めています。野洲病院で処方されたお薬のこと
で何かご心配なことがあれば、遠慮なくご相談ください。



新しい「地域医療センター」の薬
品保管庫は、多くの在庫や新興感染
症ワクチンを備えられるよう、ゆと
りのある広さを確保しています。

また、AI を使った薬剤監査シス
テムを導入し、患者さんへの正確な
お薬の提供という最も重要な責務
を果たしてまいります。

-----歴史の井戸辺 医事にまつわる野洲の歴史散策 第7回-----



○菅原神社（野洲市永原）

医師であった北村^{そりゅう}宗龍（1552～1643 年）は、菅原神社（永原）
を拠点に、連歌師としても活躍していたことでも知られている。
連歌とは集団で行う文芸である。戦国期にも流行し、大名たちは
家臣団等と連歌の会を催した。会の進行や連歌の指導をしたのが、
時には諸国を渡り歩くこともあった、連歌師であった。

宗龍の孫には、宗龍の連歌に影響を受けたのか、文学の方面で
有名になった人がいる。後に徳川幕府の歌学方になった北村^{きぎん}季吟
（1625～1705 年）である。江戸時代に『源
氏物語』を読むことは、季吟が書いた『湖
月抄』（『源氏物語』の註解書）を読むことと同義ともいわれていたようである。
そういえば、川端康成が昭和 20 年 8 月 15 日に読んでいたのも、この『湖月
抄』だったという記録が残されている。なお、そんな季吟も、実は宗龍と同じ
く医師であった。



○北村季吟の碑
（野洲市北）

【参考文献】

- ・大谷雅彦編著『北村宗龍 埋もれていた近江の医聖』1986 年
- ・榎坂浩尚「長岡居住時代の季吟」（『近世文藝』第 54 巻、1991 年）
- ・島内景二『北村季吟』ミネルヴァ書房、2004 年
- ・綿坂豊昭『戦国武将と連歌師 乱世のインテリジェンス』平凡社新書、2014 年
- ・前田雅之『古典と日本人 「古典的公共圏」の栄光と没落』光文新書、2022 年
- ・川端康成「哀愁」（川西正明編『川端康成随筆集』岩波文庫、2013 年、所収（初出、1947 年））